

おわりに

- 第1章から第3章までの内容の他に、実習に関して不明な点や困ったことなどがあれば、所属学部の学務グループか、全学教職センター（教育学部A棟2階）に報告、相談してください。
- 不測の事態（例：怪我や病気による長期の入院など）により実習実施に支障が生じた場合には、速やかに所属学部の学務グループに連絡してください。
- 実習実施に関する至急の連絡をする場合もあるので、メールやメッセージ、掲示に注意してください。

おわりに

教育実習を終えた先輩の感想を、「事後レポート」から抜粋していくつか紹介します。

- 【1】** 2週間の教育実習は新しい発見の連続で、非常に刺激的なものであった。その思い出をふりかえると、数多くの失敗から自分の至らなさを痛感したこともあったが、担当したクラスの生徒との交流や先生方からの励ましの言葉が、教育実習を乗り越え、大きな学びを得るための力になった。この経験を活かし、人としてより大きく成長していけるよう、研鑽を重ねたい。

おわりに

【2】 教育実習期間中、うまくいかない・難しいと思う機会が多かった。しかし、実際に生徒と触れ合い授業づくりを行う中で、教師という職業の魅力を感じた。生徒は想像以上に温かく、私の拙い授業にもついてきてくれたし、自分自身の取り組み方次第で生徒の反応の変化も感じられた。

悩みを抱えた生徒に対しては、教師という立場でなければ「他人」として無視することもあるだろうが、教師はそうした生徒にじっくり寄り添うことが必要である。そうしたところに、教師としてのやりがいを感じることができた。

おわりに

【3】 実習前は不安が大きかった。先輩方からも話はきいていたし、楽しみではあるが反面そういうポジティブな面だけではないだろうなという気持ちが大きかった。実際にいってみて、やはり仕事ということもあり、表向きの楽しい部分だけではなかったが、それ以上に、実習を通して学んだ教師という仕事に対する充足感のほうが大きく、きつさやつらさよりも楽しさのほうが勝った実習だったなと感じた。この経験は、この先自分が教師になれば、この職を続けていくにあたっての根底として残り続けると思う。

おわりに

- 【4】** 正直、仕事の多さに驚いたが、その大変さを上回るほど生徒とともに過ごした時間は楽しく実りあるものだった。そして、大変な仕事を抱えながらも生徒に一切そういった面を見せない先生方を改めて尊敬する。そんな先生に一步でも近づくことができるよう努力したい。
- 【5】** 教師という仕事に自分が合うかどうかは分からないが、努力次第では天職にすることもできると感じている。現状ではまだ専門職か教師か悩んでいるが、将来何になるにせよ、おそらくこの経験で学んだことが必ず生かされる場面があると確信している。

おわりに

- 【6】** 教育実習前は、職業として教員を選ぶことはないだろうと思っていた。しかし、実習を通して、生徒が持つ前向きな姿勢や一生懸命に物事を頑張る姿に感動し、力をもらった。生徒たちと関わることで生涯自分も成長し続けられる、非常にやりがいのある職業であることを実感した。たくさんの困難を目の当たりにすることもあったが、自分という存在を見つめ直すことができ、実りのある期間だった。
- 【7】** 本当の感謝という感情や、教育に関わる技術や心構え、社会へ羽ばたく自信など、内面的にも大きく成長できた、実りある実習だった。

おわりに

**みなさんにとって
実りある実習，心に残る経験
になることを願っています。**

**茨城大学
人文社会科学部・理学部・農学部
全学教職センター**